

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 210-0006
 住 所 川崎市川崎区砂子一丁目8番地1川崎室町ビル
 氏 名 出光ルブテクノ 株式会社
 代表取締役社長 福田 幸治 印

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	出光ルブテクノ株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区砂子一丁目8番地1 川崎室町ビル		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	17	石油製品・石炭製品製造業
主たる事業 の内容	潤滑油の貯蔵・製造・出荷		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量		1,629 k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
	電話番号		
	FAX番号		
	メールアドレス		
※受付欄		※特記事項	※事業者番号

(第2面)

計画期間及び報告年度	2022 年度 ~ 2024 年度 (報告年度 2024 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況 (第1、2、4号該当者等)

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 3,464	(実) 3,578	(実) 3,369	(実) 2,670	(実) 3,454
	(調) 2,969	(調) 2,888	(調) 2,757	(調) 2,670	(調) 2,976
削減率		(実) -3.3%	(実) 2.7%	(実) 22.9%	(実) 0.3%
		(調) 2.7%	(調) 7.1%	(調) 10.1%	(調) -0.2%

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値 (任意記載)

	製造数量				原単位等の単位	t-CO2/千kℓ
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度		
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)	目標とした値	
排出量原単位等の値	23.46	26.25	24.19	19.51	22.89	
活動量の値	148	136	139	137	-	
排出量原単位等の削減率		-11.9%	-3.1%	16.8%	2.4%	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	当初計画では製造数量1%増加の見込みだったが、8%の減少となった。そのため第1年度は原単位換算では削減できていないが、空調機器を省エネモデルに更新したことで温室効果ガスの削減に取り組んだ。(COP比較で冷房時: 2.42→3.36 暖房時: 2.88→3.92) その他、計画外の取り組みとして祝日、日曜日のコンプレッサ使用圧力、稼働時間の低減に取り組んだ。	
第2年度	当初計画では製造数量1%増加の見込みだったが、前年同等の製造数量となった。しかし製品タンク加温用の温水温度の設定変更、添加剤タンクMX稼働時間の短縮に取り組み、エネルギー原単位前年対比1%減の目標に対し4.6%減となり、高い成果を上げることができた。	
第3年度	照明設備更新や運用での省エネ対策に加え、基礎排出係数が0t-CO2/kWhの買電契約に変えることにより大幅なCO2削減を図ることができた。	
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)		2024年度の製造数量が基準年度の数値まで回復せず、原単位としては厳しい状況であったが、計画的な設備更新、省エネを意識した運用、買電契約変更により目標を大幅に超える16.8%の原単位削減を達成した。
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)		灯油ボイラーなど化石燃料を用いる装置への削減案を中心に進めていく

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況 (全社目標) (任意記載)

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>【基本対策】 02-02-01：【熱媒体の管理】圧力のばらつきを許容しての燃料削減検討 【目標対策】 03-01-10：【空調機の更新】(2022) 08-01-03：【照明の管理】LED更新計画(1/1Y)</p>
<p>第1年度</p>	<p>【基本対策】 02-02-01：【熱媒体の管理】圧力のばらつきを許容しての燃料削減検討 →製造に影響を与えない設定点の確認の為、メーカーによる模擬運転シミュレーションの予算化を達成。※第1年度は効果を生む具体策対応は未実施。 【目標対策】 03-01-10：【空調機の更新】(2022) 対象箇所：製造管理室2F執務室(PAC3) →能力は現状維持にて、現行の省エネモデルへと機器更新を実施。 COP比較_冷房時：2.42→3.36 暖房時：2.88→3.92 08-01-03：【照明の管理】LED更新計画(1/1Y) →予算都合により、未実施(計画スライド)</p>
<p>第2年度</p>	<p>【基本対策】 02-02-01：【熱媒体の管理】圧力のばらつきを許容しての燃料削減検討 →製造に影響を与えない設定点の確認の為、メーカーによる模擬運転シミュレーションの検討を実施。※第2年度は効果を生む具体策対応は未実施。 【目標対策】 08-01-03：【照明の管理】LED更新計画(1/1Y) ①ボイラー室_交換7灯(40W) _85.4KWh/Y ②調合充填棟_交換17灯(40W*2) _2417.6KWh/Y ③他建屋_交換52灯(40W*2) _6978.4KWh/Y</p>
<p>第3年度</p>	<p>【基本対策】 02-02-01：【熱媒体の管理】圧力のばらつきを許容しての燃料削減検討 →シミュレーションの実施まで行い、ボイラーのパラメータ変更による燃料削減効果が見えた。次年度以降でパラメータ変更実施を計画する。 【目標対策】 08-01-03：【照明の管理】LED更新計画(1/1Y) ①調合充填棟_交換32灯(40W*2) _4704KWh/Y ③他建屋_交換44灯(40W*2) _6468KWh/Y</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>機器更新に合わせた省エネ機器の導入はほぼ計画通りに遂行することができた。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

4 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	当該計画期間年度中には実施予定は無い。
第1年度	
第2年度	
第3年度	

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	所内の省エネルギー活動の共有の場として、安全衛生環境委員会を継続し、各部署の省エネルギー活動の実務担当者の情報共有のために環境小委員会を立ち上げた。この委員会を通じて、エネルギー削減の施策立案・実行、動向監視を実施している。また、当議事録を社内サイトへ掲示し、社員への意識付け・向上を目指している。
第1年度	各部署の省エネルギー活動の実務担当者の情報共有のための環境小委員会にて計画されていた空調機器の更新によるエネルギー削減状況の共有、あらたな施策である祝日・日曜日のコンプレッサーの使用圧力および使用時間の削減について立案・実行・エネルギー削減状況の共有を行った。(追加実施) また経営層および全所員に対しては引き続き月1回開催の安全衛生環境委員会にて随時議題として現状報告した。なお当委員会の議事録は社内サイトへ掲示し、地球温暖化対策への意識付け・意識向上を目指している。
第2年度	所内の省エネルギー活動の共有の場である安全衛生環境委員会、実務担当者の情報共有の場である環境小委員会にて2023年度の省エネ活動である製品タンク加温用の温水温度の設定変更、添加剤タンクMX稼働時間の短縮活動による削減効果について適宜進捗を確認した。 また本年度の啓蒙活動として自社グループのカーボンニュートラルに関する取り組みや海外潤滑油工場の省エネ活動を共有し、従業員の地球温暖化に対する意識向上を図った。
第3年度	当事業所で製造している「Idemitsu AshFree」について、ディーゼル車のDPF燃焼回数を削減することでCO2削減効果が期待できるエンジンオイルとして川崎CNブランド認定された。 その他所内の省エネ活動として、加熱ムロの加熱期間短縮などの取り組みを行った。(追加実施)

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	3,464 t-CO ₂	3,578 t-CO ₂	3,369 t-CO ₂	2,670 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	1,745 KL	1,690 KL	1,649 KL	1,629 KL
事業所の数	2	2	2	2

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度
出光興産京浜ルプセンター	川崎市川崎区水江町6番2号	3,411	3,526	3,315	2,616

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第1年度	第2年度	第3年度